

# SE止まりのシナリオ訓練（試行）について

2022年12月14日  
日本原子力発電（株）

## 1. これまでの訓練

これまでの訓練は、GE（炉心損傷等）に至らせるため、運転中を想定とし、地震起因により次々に機器が故障・使用不能となり、事象進展が早く短時間での戦略検討・立案を求めるような、要員に大きな負荷をかけることで指揮者の判断能力・組織の対応能力向上に寄与するものであった。一方で、GE（炉心損傷等）に至らせるため、限定的なシナリオ（パターン化）となり、多様なシナリオによる指揮者の判断能力向上につながるようなシナリオ設定とすることが難しい状況にある。

## 2. SE止まり（GEに至らない、炉心損傷に至らない）訓練シナリオで期待できる効果

### 【本部指揮者の判断能力向上】

事象進展が緩やか、かつ対応手段（使用可能な機器）が増えることで、これまで使用できなかった機器を対応手段とした戦略検討が可能となり、**戦略の幅**が広がる。また、どの対応手段にリソース（要員や時間）を費やすのか等、**戦略に深み**を増した立案が可能となることで、指揮者の判断能力向上が期待できる。

### 【SE止まり、あるいはGEに至るようなマルチエンディング】

当社ではフルスコープシミュレータ（以下「FSS」という。）（SPDSを模擬）を使用・連携することで本部の判断結果がリアルタイムで運転操作に反映される。このため、シナリオはSEまでを基本とし、本部の判断次第でSE止まり、あるいはGEに至るような訓練が可能となる。また、訓練後の振り返りにおいて、別の判断ケースをデータ等で示すことで、指揮者自ら判断結果を検証することが可能となり、指揮者の判断能力向上が期待できる。（FSSと連携している事業者のみ）

### 【多様なシナリオによる事故対応能力向上】

GEに至ることを必須としないため、比較的訓練時間に余裕が生じることで、これまで訓練で取り入れにくかった事故・トラブル（LCO事象）段階からの訓練等を実施することにより、**新たな課題が抽出**でき、更なる事故対応力の向上が期待できる。

## 3. その他期待できる効果（今回原電で試行はしないが他事業者共通で期待出来る効果）

### 【多様なシナリオによる事故対応能力向上】

地震以外での自然災害起因、原子炉の状態に囚われない訓練（停止中の冷却機能喪失事故、燃料交換中の原子炉外臨界等）や、今まであまり取り入れなかったEALの訓練（直流電源の喪失、制御室の機能喪失）が出来るようになり、様々なシナリオで訓練することにより、**新たな課題が抽出**でき、更なる事故対応能力の向上が期待できる。

#### 4. 期待できる効果に対する訓練の狙いと期待事項①

項目	期待できる効果	付与状況	訓練の狙い	期待事項
①	シナリオ情報を含むため非公開			
②				

## 4. 期待できる効果に対する訓練の狙いと期待事項②

項目	期待できる効果	付与状況	訓練の狙い	期待事項
③	シナリオ情報を含むため非公開			
④				